

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆうかり



第20号

鹿児島国際大学社会福祉学会編集

目次

巻頭言

「ゆうかり」第20号によせて

大山 朝子 1

社会福祉学科企画行事

2020年度 社会福祉学科ミニオープンキャンパスについて

大山 朝子 2

ゆく人、来る人ーさよならと、こんにちは

ゆくひとくるひと	小窪 輝吉	 5
ゆくひと、くるひと	岡田 洋一	 6
新任教員の挨拶	林 岳宏	 7
大学教員としてのスタート	永富 大輔	 8

ゆうかり編集委員会企画 ～学生による3つのコラム～

匠にインタビュー	上村 耀・小野 美幸・桑鶴 海良・下津 美月・ 三宅 希美・上村 麗奈・田畑 なつみ・榊 彩人	10
綿の花を育ててみました！	三宅 希美・上村 麗奈	14
地域猫をご存じですか？	榊 彩人・田畑 夏美	16

社会福祉学科イベント

クライアントのストレングスと自分自身に目を向けたSW学内実習	嶺崎 美紅	19
ソーシャルワーク学内代替実習を通して	稲村 陽香	19
ソーシャルワークの子ども分野実習を振り返って	宇戸口 美優	20
ソーシャルワークの子ども分野実習を振り返って	竹下 侑輝	20
SW実習を終えて	溝辺 響希	21
ソーシャルワーク実習を終えて	前山 聡宏	21
自分たちの境遇を生かすも殺すも己の技量次第	高橋 信行	22
精神保健福祉援助実習について	林 岳宏・岡田 洋一	24
介護実習（介護福祉士課程）	岩崎 房子	26
教育実習	古賀 政文	27
コロナ禍の中、新ゼミIIで最初のオンラインクイズ大会が開催される！	松元 泰英	31
「演習論文報告会」の報告	岩崎 房子	32

演習論文報告会コメント

自主研究助成による研究報告

(コメント) 今後の社会福祉学会自主研究助成による活動を考える新たな1歩	永富 大輔	33
(研究報告) 鹿児島県の子ども食堂の現状と課題ーA子ども食堂の現状と課題ー	池之上 友里寧・重山 瑠花 玉利 元樹・濱村 和璃	34

2020年度演習論文テーマ36

鹿児島国際大学社会福祉学会会則40

2019年度鹿児島国際大学社会福祉学会・収支決算報告42

ゆうかり編集室便り

.....43



『ゆうかり』 第 20 号に寄せて

福祉社会学部教授 大山 朝子

第 20 号の『ゆうかり』をお届けすることができました。最初に手に取られるのは卒業生の方々になることと思います。まずはご卒業おめでとうございます。本誌は、社会福祉学科でこの一年間に行われた実習、研究および企画等について、広く発表する場となっていますがこの度の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けてその中身は例年とはだいぶ異なるものになりました。

まず昨年度の卒業式、それに続く今年度の入学式が開催されませんでした。授業は開始されたものの、学内におけるマスクの着用や換気の徹底等、その他でも学内、学外における活動の自粛などがありました。さらに 4 月末から 5 月初旬にかけて全国的に緊急事態が宣言され休校となり、対面授業に代替するオンライン授業が実施されました。緊急事態宣言が解除され、対面授業に戻ったと思った 6 月下旬には鹿児島市でもクラスターが発生し、再び対面授業からオンライン授業に変更となった後にソーシャルワーク実習・精神保健福祉士実習・介護福祉士実習も急遽施設実習から学内での実習へと変更されました。例年と違うこのような状況において手探りで取り組みとなりましたが、関係機関等からの協力の下全員が無事に実習を終了することができました。この場をお借りして関係者の皆様にお礼申し上げます。

この度の感染症の流行は医療のみならず広く社会に影響を及ぼしました。日々の報道を通して社会における福祉の重要性を再認識させられましたし、このような不測の状況における福祉現場の課題などについても社会全体で考える機会になったと思います。今年度コロナ禍の下で学生生活を送ることになった皆さんにとっては、これまで当たり前だったことができない状況で様々な戸惑いや多くの困難があったことと思います。この一年まわりの多くの方々の支えがあったことに感謝しつつ、これらを改めて福祉を学ぶことの意味を深める良い機会に転換して欲しいと思います。

また、この『ゆうかり』を読むことにより、自分自身がこの一年間に感じたこと、考えたことなどを振り返り、今後に活かしていただけると嬉しいです。

最後になりましたが、第 20 号の編集に尽力していただいた上田先生や学生編集委員の学生の皆さん、執筆者の方々に深く感謝いたします。

2020年度 社会福祉学科ミニオープンキャンパスについて

大山 朝子

今年度は感染症の流行のため、例年実施している一日大学生体験をオンラインによるミニオープンキャンパスに変更して12月5日（日）に開催しました。申込者は5名でした（県内4名・県外1名）が、当日参加は4名でした（県内3名・県外1名）。

内容としては模擬授業2本と進学相談の2部構成としました。模擬授業は茶屋道先生と有村先生に講義していただきました。茶屋道先生が「プロの見方」で見渡す社会と題して、各種統計を提示し世界の中での日本の立ち位置を確認した上で、将来の日本の姿を想像し、今後必要とされるソーシャルワークについて考えるという内容でした。有村先生は「プロの優しさ」を発揮する福祉と題して、福祉のプロ（専門職）とはその行動に理由や根拠がある人であることをあげ、行動を支える「構え」「知識」「技術」「価値」の必要性についてノーベル平和賞を受賞したマララさんの国連での演説等を提示しながら考えるという内容でした。





その後の進学相談では、国家資格の合格率、就職先、授業料の減免等の質問に対し、各先生方から説明をしていただき、無事終了することができました。また、4名の参加生徒さんたちには、終了後にアンケートに協力していただいたところ、以下のような回答がありました。

1. 企画は何で知りましたか？ ⇒ 掲示物 3名（75%） 高校の先生 1名（25%）
2. 進学に関する情報を
入手する方法は？（複数回答可） ⇒ インターネット 4名（100%）
高校の先生 2名（50%）
家族 1名（25%）
3. 開催時期は適切でしたか？ ⇒ 適切 4名（100%）[理由]進路を決め始めているから。
4. 模擬授業の内容はいかがでしたか？ ⇒
 - ・ 分かりやすく面白かった。飽きずに聞けた。
 - ・ いろんなことや福祉についての大切さやプロの優しさをよく知ることができた。

5. 進学相談については満足しましたか？ ⇒ 大変満足 4名（100%）
[理由] いろいろな事を親切に教えてくれた。
6. 友人にもオンライン開催でのオープンキャンパスへ参加を勧めようと思いますか？
⇒ そう思う 3名（75%） ややそう思う 1名（25%）
7. 今回のイベントで改善した方がよいところがありましたか？
⇒ ・アプリの操作が難しくて最初分からなかった。オンラインは難しいと感じた。
8. その他
⇒ ・とても優しくいろんなことを分かりやすく説明していただいて学ぶことができました！今日は本当にありがとうございました。

今回は対面での一日大学生体験が行えないなか、オンラインでのミニオープンキャンパスの開催を初めて試みました。参加者は例年の対面でのイベントと比較するとだいぶ少なくなりましたが、実施した結果、オンライン開催における課題（例えば高校生にとってアプリ操作が難しい等）やオンラインによる進学相談の要望があることを把握することができました。来年度は社会環境がどのような状況になっているかまだわかりませんが、このような状況が継続することもふまえ、高校生の皆さんに本学科の魅力をどのようにして発信していけばよいか、来年度に向け引き続き様々な角度から検討していきたいと思います。

最後になりましたが、今回のオンラインによるミニオープンキャンパスの開催にあたり、広報・申込の面でご協力いただいた入試・広報課の方々および担当していただいた学科の先生方（自前の機器等の持込み、ネット上でのアンケートフォームの作成、開催風景の撮影等）に深く感謝申し上げます。



ゆくひとくるひと

小窪 輝吉

この度、「ゆくひとくるひと」の「ゆくひと」として原稿を書くよう依頼されました。「ゆうかり」第16・17号の巻頭言に社会福祉学会の前身である社会学会の発足時の取り組みと機関誌の発行等について書いたもので他の思い出話をさせてもらおうと思います。

私は本学に社会学部が発足した1982年4月に社会福祉学科の教員として赴任しました。採用内定をいただいた1981年の暮れに大学を訪問しました。その際、印象に残っているのが3月完成に向けて「槌音高く」工事していた5号館です。まだ櫓で囲まれ溶接か何かの音が響いていました。入学式に間に合うのかなと心配したのを覚えています。その後、新学部長予定の原田先生が新築の5号館を背に学部発足の抱負を語る姿が載った新聞記事を見ました。それは私の親が切り抜きを取っておいてくれたものでした。

社会学部は社会福祉学科と産業社会学科の2つの学科で発足しました。その後、児童学科が加わり社会福祉学科、現代社会学科の3学科からなる福祉社会学部へと変わり、現在は社会福祉学科と児童学科の2学科体制になっています。大学名も鹿児島経済大学から鹿児島国際大学へと変わりました。その間、4号館、新図書館、新食堂、8号館、7号館が建てられてキャンパスマップも随分と変わりました。時代の変化を感じます。

学部教授会では年長の先生方が自由な発言を促す雰囲気を作ってくださいました。上意下達ではなく誰もが発言できるという規範が根付いてきたと思います。ですから特に新任の先生には「なぜそのようにしているのか」など素朴な質問でいいですから積極的にしていただきたいと思います。そういう問いかけがあることで「今まで当たり前にしてきたこと」について改めて考えるきっかけが生まれます。これは組織活性化にとって有益だと思います。

学科会議は両学科合同で始まりました。学部発足にあたり多くの新しいことを決めていく必要があるので学科の垣根がないほうが良いという理由でした。また、堅苦しくないほうが良いということで学科長という名前を使わず世話役と呼び、世話役には「若い者がやれ」ということで若手の先生が2人で当たりました。その後、学部の体制が整うなかで学科別の会議になりました。世話役も学科長という名前に変わり、それにともない学科長の役割も増えていきました。

当時は「放課後」と呼ぶような時間がありました。現在の図書館のところに少林寺拳法とボクシングの部室があり、5時前ごろからボクシング部の練習が始まりサンドバッグの音かのどかなキャンパスに響いていたのがなつかしい思い出の一つです。少林寺拳法部では先輩が視野に入ったら大声であいさつするという決まりがあったようで、最初はなにごとかと驚きました。「放課後」に教員と職員でソフトボールの試合をしたこともあります。教員同士でテニスやバドミントンなど楽しんだこともあります。

ここまで書いて、社会学会(社会福祉学会)での失敗談を思い出しました。機関誌「YAM」

に街のお店などの一口記事を載せるコーナーがありました。ほんの数行の記事でしたが、それに対してクレームが来て、お店に菓子折りを持ってお詫びに行ったことがありました。また、大学食堂の同じフロアで児童学会と卒業パーティを開いた時に、テーブル配置を勘違いして社会福祉学科の参加者が児童学会の料理を食べてしまい大目玉を食らったこともありました。迷惑をかけたことは消えませんが、今となってはそれもいい思い出の一つになっているような気がしています。

県内を回ると学科の卒業生が活躍している姿をよく見ます。学生の皆さん、社会福祉学科を踏み台にして自分の未来を切り開いていってください。社会福祉学科の先生方、長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。

ゆくひと、くるひと

岡田 洋一

私が鹿児島国際大学に着任したのは平成 15 年でした。それまでは精神科病院で精神科ソーシャルワーカーとして働いていました。初めての大学専任教員という身分に最初は戸惑うことも多かったのを覚えています。当時、鹿児島には精神保健福祉士を養成する大学は鹿児島国際大学しかありませんでした。その為、県や市の協議会や審査会などに参加することになったのです。精神科病院時代は患者さんのことで福祉事務所の窓口とぶつかり、煙たがられることもありましたが鹿児島ではどの委員会でも丁重な扱いを受け驚いたことを覚えています。また、大学の教員として実習先の精神保健福祉士との付き合い方も最初は慣れませんでした。以前は、一人の精神保健福祉士として同業の仲間とともに活動していたのですがこちらでは大学教員という立場で現場の精神保健福祉士が対応するために距離があるような印象を持ちました。私が現場から学ぶスタンスを話していくなかで少し現場との距離は縮まっていたように思います。勿論、大学教員として現場へ貢献する義務があることもわかっていましたので懸命に学びを深めるための努力もしてきました。50 歳という年齢で初めての大学専任教員としてはとにかくプレッシャーが大きかったように思います。ただ、現場に出て精神障害者やアルコール依存症者・薬物依存症者の方々の自助組織などに参加する中で彼らから支えられ学びながら自らを励まして今日まで働くことができたようにも思います。大学では着任してすぐに当時の学生部長だった山下孝文先生より学生相談室の相談員になって欲しいと依頼がありました。私は精神科病院の勤務が長かったため、学生のメンタルヘルスの問題については経験的にはおおよその見立てができると思っていましたがうまくいかなかったことも多々ありました。難しい相談については精神科医でもある野田隆鋒先生（昨年退職されました）や実習先で親しくなった精神科病院の先生方にお世話になりながらやってきました。また、佐藤直明先生、山田晋先生、岩井浩英先生、山下孝子先生、青木康一先生、太田秀春先生、森岡玲子先生、四元真弓先生からも言葉では言い表せないくらいに支援してもらいました。学生部の職員や保健室の方々からもサポートしてもらったことを忘れません。教員としての私を支えて下さった社会福祉学科、福祉社会学部の先生方、そして組合の皆さま

んにも深くお礼をいわなければなりません。人生の晩年まで17年間務めることができて学生を含め関わった多くの人たちに感謝しているところです。250人あまりの精神保健福祉士を送る出すことができたことにも誇りを感じています。彼らは今や鹿児島県の精神保健福祉士の中核として活躍しています。私自身は不十分なことも山ほどあり特に熊本が県独自で緊急事態宣言を行った為、1月からほとんど大学に足を運ぶことができなくなってしまい多くの教職員にご迷惑をかけてしまいました。精神保健福祉士養成課程の林先生、来年度精神保健福祉士養成課程を担当される茶屋道先生、実習支援課の中條さん、学科の先生方や職員の方々が私の抜けをサポートして下さりなんといっって良いか・・深謝しています。最後に鹿児島国際大学が学生や地域にとって掛けがいのない大学であり続けることを願っています。

新任教員の挨拶

林 岳宏

2020年4月に着任しました、林岳宏です。野田先生の後任として参りました。これまで、精神科医として、鹿児島大学病院を中心に勤務してきました。鹿児島大学では、教員として、医学生を中心に講義や実習指導を行ってきました。この度、縁あって、精神保健福祉士養成課程の教員として本学に来ることができました。

私は神戸の出身で、大学入学時に鹿児島に来ました。高校時代から精神医学や心理学に興味があり、当時は興味の向くままにいろいろな本を読み漁っていました。反精神医学の本に夢中になったこともありましたが、最終的には医学部進学を決めました。6年間の学生生活に加え、卒後2年間の初期臨床研修を終えてから、精神科医として働き始めました。同時に大学院に進学し、研究も始めました。

大学在学中より、「人を相手にした仕事をするのだから、脳のことをしっかり勉強したい」と思っていました。当時は、遺伝子の世界で新たな発見が相次ぎ、病気の原因遺伝子が次々と発見されるなどしていたため、精神医学においても分子遺伝学的なアプローチの研究を試みたいと思うようになりました。大学院在学中は、精神疾患の患者さんや、精神症状を呈する神経変性疾患の患者さんの染色体や遺伝子を調べるようなことを行っていました。見つかった異常と、目の前で起こっている現象が、どのように理論的に結びつくのか。過去の研究をもとに考え、細胞を使った実験などで検証していきます。ときには、週1回の病院勤務以外は、文字通り朝から晩まで実験するといった生活の時期もありました。多くの失敗を繰り返しましたが、立てた仮説が証明できるような結果が出た時は、何物にも代え難い喜びがありました。さらに、学会等で似たような研究をしている人達と議論することで、さらに学問的な興味が湧いてきました。

その一方で、精神科医としてキャリアを重ねていくと、そういった研究と現実との乖離を、嫌というほど実感します。精神疾患の原因を突き止めて治療できれば理想ですが、脳はあまりにも複雑な組織です。さらに、家族関係で苦しんでいる患者さんや、金銭問題で苦しんで



いる患者さんの心の状態を良くするためには、自分が行っているような研究はほとんど役に立ちません。専門医などの資格を取り、学生や研修医を指導する立場になると、「もっと現場に近い研究をしたい」と思うようになりました。現在は、精神科で使う薬の副作用における個人差について研究しています。

さらに、救急医療や災害医療にも参加するなかで、多職種でチームとしアプローチすることの有用性を強く実感するようになりました。リエゾン精神医学の専門医を取得する過程で、「多職種連携のあり方」について考えるようになりました。精神科の多職種連携において、精神保健福祉士の果たす役割はとても大きいものがあります。ときには、その現場の動きの良し悪しを大きく左右することもあります。

今回、この大学に来ることができ、学生の皆さんが精神保健福祉士や社会福祉士として世に出るお手伝いができることを、とても嬉しく思っています。そのなかで、医療や福祉の現場をより良くするための「多職種連携のあり方」についても、皆さんと一緒に考えていくことができればと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

大学教員としてのスタート

永富 大舗

ちょうど、15年前、私は大学3年生でした。教員採用試験を受けるか、大学院に進学するか悩んでいたとき、その時の大学の先生から「君は現場で3年間働きなさい。それでも、もっと勉強したければ大学に戻りなさい。」と言われました。学校の教員をして、3年間、あまりにも楽しい生活だったのと、もっと経験したいという思いで、小学校と特別支援学校の2つの学校の教員を勤めました。

教員という仕事は、教育のみならず、事務仕事も多く、毎日多忙の日々でした。その中でも、毎日本を読みあさり、大学の先生と連携をして実践研究をたくさんしてきました。平日は教員、土日は日本全国の研修会に参加する日々でした。そんなことをしている時、大学4年間で学んだことよりも、もっともっと学ぶことがたくさんある、そして、学び続けることで指導が変わり、子供が変わることを実感していきました。また、ちょうどその頃、同じ職場の先生から「永富先生は、子供にも教員にも教えることが上手だ。大学で永富先生から学んだ学生は、学んだことを生かして子供に関わり、すごくたくさんの子供が幸せになる。」と言われ、大学教員になることを考え始めました。それから、大学院に進むまでの4年間、たくさんの方々に相談したことを覚えています。

大学に戻って、勉学と研究、臨床に明け暮れて6年間で過ぎた2020年、ついに鹿児島国際大学で大学教員となれました。私が大学教員としてしたいことは主に3つです。

1つ目は、教育や臨床の研究、勉学を続けることです。常に新しいことが取り組まれ、新しい知見が発見され、子供の成長を促す指導方法が確立しています。これらは、手を差し伸べていれば教えてもらえるものではありません。自ら手に入れ、学び、実践することで得ら



れるものです。

2つ目は、教育の楽しさ、面白さ、そして確立された指導方法をできるだけ分かりやすく学生に伝えることです。教育は本当に面白いです。毎日、刺激的で、子供の笑顔を見ることができ、子供の成長を実感できます。とても素敵な仕事です。しかし、教育は子供と日々を過ごすことが仕事ではありません。子供が言葉の意味を分かるようになると、今よりもっと日々の生活を理解できるようになります。文字を読めるようになると、今よりももっと知識を得られるようになります。コミュニケーション手段を身につけると、今よりももっと人との触れ合いが楽しくなります。これらを教えるのが教員です。そして、子供の学習を促すためには、より効果の高い指導方法を用いなければなりません。現在、有効だと証明されている指導方法を、できる限り分かりやすく学生にお伝えできたらと思います。

3つ目は、現場と大学の架け橋になることです。大学の教員は常に新しい知見を求め、発見し、それを楽しむ人種です。それはいいのですが、個人の楽しみだけに終わると、非常にもったいないです。それをいかに分かりやすく日常生活、例えば、教育や臨床、親子の関わりに応用し、そして、それを知った教員、保育者、臨床家、保護者が変わり、子供が今までにないくらい成長し、大人も子供もみんなが笑顔になり、幸せになる。そんな流れを作りたいと考えています。

大学教員としてのスタートを切って1年目、まだまだ至らない点がたくさんあると思いますが、これからの教育の発展に少しでも力になれるよう、楽しもうと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。



匠にインタビュー

上村 耀・小野 美幸・桑鶴 海良・下津 美月・
三宅 希美・上村 麗奈・田畑 なつみ・榊 彩人

地域で活躍されている高橋美智雄さんをご紹介します。現在高橋さんは子ども食堂支援ボランティア活動をされています。どんな活動なのか、きっかけは何なのか、たくさん質問をさせていただきました。



Q 1. ボランティアをしようと思ったきっかけは何ですか？

60歳の時にたまたま仕事で老人ホームの指導員をしていた。その中で、ボランティアで活躍されている人を見て、面白い、自分もやってみたいと思い、ボランティア登録を行った。そこからボランティア活動をはじめ、その流れで子ども食堂ボランティア活動につながった。

Q2. ボランティアを始めて印象に残っている経験は何ですか？

谷山にある慈遊館に半年間、食器洗い、片付けなどのボランティアを行った。そこにいた一人の利用者さんは、気に食わない人がいたら殴りかかるような人だった。最初は、“冗談かな”と思い本気にはしていなかったが、ある時、その利用者さんが後ろから殴りかかろうとした。しかし、殴りかかる前に倒れてしまい、骨折をしてしまった。それを見ていた職員の方が、“高橋さんと利用者さんが少し合わなかったのではないかな”ということで別の場所でボランティアをすることになった。せっかくボランティアで来たのに、“なぜだろう”と思いながら帰った経験がある。

Q3. 現在子ども食堂の取り組みはどんなことですか？

最初に県に登録した内容は、貧しい子どもたちや親が共働きの子どもたちを対象とした取り組みを行っている。しかし、現在は、子どもたち全員を対象とした取り組みである。当初は聞き分けの良い子、言うことを聞かない子など、様々な子どもがいてにぎやかだったが、最近は意見が合わない子どももいて難しい場面に直面している。

Q4. 子ども食堂ボランティアをして大変だったこと、幸せに感じたことは何ですか？

問題が起きるとその都度なんとか一人で準備などをこなしていて、正直に言うとは大変だった。しかし、終わったらほっとするため、“これがやりがいと言われたらそうなのではないのかな”と思う。幸せに感じたのは、子どもたちが高橋美智雄さんを「爺」と呼び、何かあるたびに「爺、ジュース」「爺、水」と言ってくれることである。子ども

たちがそう呼んでくれるので頼りにされているようで、それが幸せだと感じる。

Q5. 今後の活動と課題について教えてください。

今現在、錦江台の町内会会長をしているため、町内会で子どもと高齢者、どちらも支えたいと思っている。そして、こういった子どもたちや高齢者だけではなく、動物のことも支えたいと思っている。内容としては、保護された動物を集めて、亡くなるまで面倒を見るような施設を創ることである。

錦江台や坂之上に住まれている高齢者の方をどうやって町内会へ呼び込もうか、ということであり、これが、簡単そうでなかなか難しい課題である。子どもの場合だと、誰かが来て利用して面白ければどんどん利用する子が増える。しかし、高齢者の場合だとそうはいかず、「来る」と言ってくれても、実際は一人では来てくれない。高齢者はどうしても外出したがないため、何回も話をして呼び込もうと考えている。

Q6. これまでの夢と将来の夢について教えてください。

ある建設会社に26歳で見習いとして務めていた。30歳で独立し、31歳で会社を設立した。40代の頃は、もっと会社を大きくしてビルを建てたいと考えていた。しかし、人間にも限界があることが分かり、後継者に繋げた。その後始めたボランティアは、高橋さんがそれまでしていた仕事とは違い、社会に良い影響をもたらすものであった。それを面白いと思い、今もその活動を続けている。高橋さんの今の夢は、自分の考えているボランティアのアイデアを実現していくことである。今考えているアイデアは、犬や猫のシェルターを創り、ちょっとした動物のまち、保護する動物の街を作りたいと考えている。そのため、和音という一般社団法人を設立しようと計画している。

Q7. ヤギを飼おうと思ったきっかけは何ですか？

以前、鹿児島国際大学の内山先生からサルが出たという連絡をもらい、冗談で捕まえようと思いヤギを持っていこうと思いついたのがきっかけである。義理の息子に野生のヤギを捕まえてもらい、そこから育て始めた。



Q8. 今後、坂之上でやりたいことは何ですか？

元気なうちはずっと地域おこしの活性化を行っていききたい。みんなが驚くような、興味が湧くような催しをしたいと考えている。そうすれば、少しずつ地域を活性化することができるのではないのかと思っている。

Q9. 私たち学生へメッセージをお願いします。

身近な夢、目標を持ち、一つずつ実行してほしいと思う。自分のできることをできる範囲でしてほしい。一生懸命する人は時間が分からなくなるくらい熱中すると思うことから、時間が分からなくなるくらい一生懸命好きなことに取り組んでほしい。

インタビューを終えて

上村 耀：今回、高橋さんのインタビューを通して、私は、地域を基盤にボランティアや子ども食堂などの活動を行っていることが印象に残っている。なぜなら、現在の日本では地域包括ケアシステムなどといった地域というものを基盤に生活することが注目を浴びているためである。しかし、現行の社会保障制度などのフォーマルなサービスでは地域で高齢者の方や障害者の方、貧困に苦しんでいる子どもたちが生活するには不十分だと私は思う。このことから、すべての方が地域で満足して生活するには、高橋さんが行っているボランティアなどのインフォーマルなサービスが必要であり、高橋さんの行っている活動が様々な方に認知されることで地域の活性化を図ることにつながると感じた。

小野美幸：高橋さんの話を聞いて、ボランティアをすることで繋がりが広がり、それが社会福祉に繋がって良い影響を与えているため、この活動がもっと活発になって欲しいと思った。私自身も小さな活動を様々な形で行い、小さな繋がりから大きな繋がりにして、高橋さんのように良い影響を与えたいと感じた。また、目標を立てて達成することを、大学中に沢山行きたい、とも思った。

桑鶴海良：高橋さんは現在子ども食堂を運営されている。これまでに数多くのボランティア活動を行ってこられたが、きっかけは仕事で老人ホームを訪問したんことだった。それまではボランティアに特別な関心を持っていたわけでもなかったそうだが、そこでの経験を経てボランティア団体に登録したことから様々なボランティアに参加するようになったそうだ。そんな高橋さんの次なる目標は怪我や障害を抱える動物を保護して人と触れ合える環境を作ることである。これまでのボランティアでの数多くの出会いが今の高橋さんの考えや目標を築いた。今後とも地域社会の様々な問題を解決するために尽力してくださるだろう。

下津美月：高橋さんの行っているボランティアは本当にすごいことだと感じた。そして、地域に貢献している、できている活動であると肌で感じた。しかし、高橋さんはここで満足しているわけではなく、これからのことも考えていらっしゃる。目標がかなり明確であるため、目指せるのだと思った。私ももっと明確な目標を立てて少しずつ達成できるようにしたい。高橋さんの話は、社会福祉に大切なことももちろんあったが、普段の生活でのことも学ぶことができた。

三宅希美：高橋さんの話を聞き、私は何となく始めたことがきっかけで大きなことに繋がっていくという事を思いました。面白そうという興味からボランティアに参加されたと聞いて自分から行動を起こされるのがとてもすごいことだし、新しいことをどんどんしていてとてもすごいと思いました。

上村麗奈：高橋さんがボランティアをしようと思ったきっかけは、何か特別にしたいことはなかったが、仕事で尋ねた老人ホームでボランティアの人を見たときである。それを聞いた時、



きっかけって突然来るんだなと思った。私の思う子ども食堂は、ご飯を三食食べられない子どもたちが行く場所だと思っていたが、高橋さんは子ども全員が対象で、子どもたちを助けようと思ったことに、全員が対象という部分が印象に残った。

田畑なつみ：高橋さんへのインタビューを終えて、子どもから高齢者までの幅広い世代に対し様々な活動を行っていることを知った。統計から浮き出た課題とは別に、実際の地域住民と交流することで見えてくる地域課題にも耳を傾けられる素晴らしい機会となった。

榎 彩人：最初に思った感想はこんなにも身近に山羊がいることにびっくりしたということです。その後、餌やりもさせていただいたのはとても楽しく、周りのみんなとも良い交流ができたと思います。そしてインタビューに入ると、高橋さんの様々な活動のことを聞き、自分を必要とする人たちのために頑張っているすごい人だなと感じた。自分も誰かから必要とされるように今自分ができることが何か考えたい。



綿の花を育ててみました！

三宅 希美・上村 麗奈

皆さんは鹿児島国際大学にある花壇を見たことがありますか？

実は…5号館の横にも咲いているんです！

例えば…綿の花です。—————>

普段、花壇に目を向けないそのあなた！！

ぜひ、私たちと一緒にお花について知っていきませんか？鹿児島国際大学に咲いている花の中でも今回は、綿の花について調べてみようと思います。

まずは、綿の花についての説明です。



～綿の説明～

綿は、ハイビスカスに似た花が咲きます。花がしぼんでから1か月ほどで実が割れ、中からコットンボールが見える姿がユニークです。普段私たちが目にしている白い綿だけでなく、緑・青・茶色のものがあります。また、草丈60cmくらいにしか伸びないドワーフコットンと呼ばれるものや、葉の赤い種類もあります。

白綿の種類は、結実後、秋に比較的果実が開きやすく、白いコットンボールを見ることができます。しかし、茶色や緑色の綿は、晩生¹なので、気温が低下すると果実が開かない場合があります。そこでタネの遅まきは避け、摘心²をして株の勢いを弱めて、わき芽を伸ばすようにして育てると、早く花が咲くようになります。



初期生育が遅く、双葉が展開してから草丈10cmくらいになるまでが、栽培の最も難しい時期です。このころに過湿にすると、根腐れが起りやすくなります。梅雨どきの育苗では、水はけのよい土で育てるのがポイントです。梅雨が明けて気温が高くなると、元気になってぐんぐん成長し、7月から8月に開花し、9月から10月に実をつけます。

綿ってたくさんの種類がありますね。次は、綿の栽培について調べてみましょう！

～ワタの栽培カレンダー～

(関東地方以西基準)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
観賞期												
植えつけ、植え替え												
肥料												
タネまき												

¹ 晩生…普通の植物より成長の速度が遅いこと

² 摘心…実や花を大きくするために、新しく伸びてくる茎・枝を途中で摘み取ること

育て方のポイント

① 栽培環境

日当たりと風通しのよい場所で育てます。水はけが悪い土壌であれば、川砂や軽石を混ぜて土壌改良します。酸性土壌を嫌うので、植えつけ2週間前に、苦土石灰をすき込んで中和しておきます。

② 水やり

鉢植え、庭植えともに、土がよく乾いたらたっぷりと水やりをします。若苗時期の過湿に弱いので、水を与えすぎないように注意します。真夏の開花期には水を欲しがるので、朝たっぷりと水やりします。特に鉢植えでは水切れさせないようにしましょう。

③ 主な作業

- ・摘心：樹勢を弱めないと大きくなるばかりで花をつけにくいので、本葉が6枚程度になったころ、あるいは7月中・下旬に摘心をして樹勢を弱めます。
- ・支柱立て：枝が折れやすいので、台風の到来前には、枝が折れないように支柱を立てます。

出典：みんなの趣味の園芸

さて、綿についてたくさん知ることができましたね。私たちの着ている洋服にも使われている綿ですが、新しい発見がたくさんありました。鹿児島国際大学の綿の花は、今年は台風の影響で綺麗な結実とはいきませんでした。来年は綺麗に結実するように育てたいと思います。



地域猫をご存じですか？

榊 彩人・田畑 夏美

まえがき～ごあいさつと記事紹介～

皆さん、こんにちは！

今回のコラムの一つを担当させていただいた、1年生二人組です。これからよろしくお願いします！

さて、今回は私たちが日常的によくみかける猫たちについて調べてきました！その名も地域猫！

皆さんは地域猫を知っていますか？ここ鹿児島国際大学のキャンパス内にもたまにみかける猫たち、彼らこそが地域猫なのです。

それでは、どうぞ！！

地域猫ってなあに？

そもそも地域猫とは地域の有志が、地域住民の理解と協力を得た上で野良猫の不妊治療を行い、餌場の管理、糞尿の後始末など、一定のルールに従って飼養管理する一代限りの猫のことを言います。

私たちの住む鹿児島市では、猫の鳴き声や糞尿による被害を軽減し、人と動物が共生出来る地域社会の実現を目指すため鹿児島市の区域内において猫の飼い主などの心構えおよび地域猫の手法を取り入れた野良猫の良好な管理のあり方に関するルールの「猫の適正しい飼養および管理ガイドライン」を策定し、飼い主のいない猫のトラブルを減らし地域環境を改善するためのボランティアグループ（成人3人以上）を「鹿児島市地域猫活動推進グループ」として認定し、その活動の支援を行っています。

こうして適切な処置をした猫は地域猫、または『さくら猫』と呼ばれるようになります。

さくら猫？

さくら猫は地域猫となる野良猫に不妊治療の際に不妊治療をした猫だという証として片耳の先を桜の花びらのようにカットされた猫のことです。この「さくら猫」という名前は2012年10月に沖縄県石垣島で公益法人どうぶつ基金の理事長と石垣市長と雑誌「ねこ」の編集長の会談の中で「さくら猫」と名付けられたと当時の雑誌「ねこ」に記されています。



雑誌「ねこ」

この証があることでこの野良猫たちがこれ以上は増えないと言うことを誰が見てもわかる形で示すことができ、野良猫を地域猫やさくら猫という形で社会に受け入れてもらえるようになるでしょう。



ここではさくら猫についてネコくんがネコさんに教えてもらうコーナーです。これを見ればあなたもさくら猫について詳しくなれるかも！？

さくら猫に聞いてみた！！教えてさくら猫Q & A！！

ここではさくら猫についてネコくんがネコさんに教えてもらうコーナーです。



さくら猫って耳先が桜の花びらみたいで可愛いけどあれって切られている側の猫たちは痛くないのにな？

麻酔をかけているから全く痛くないのにな！そのあとすぐに止血してもらってから血もほとんど出ないんだのになあ！私たちネコにできる限り負担をかけないようにしてくれているんだのにな！



野良猫って保健所が捕獲しているイメージだけど保健所はなにをしているのにな？

いいや、保健所では野良猫の捕獲とかはしていないのにな！そもそも猫は「動物の愛護および管理に関する法律」によって愛護動物とされていて、みだりに傷つけたり捕獲は禁止されているのにな。だから保健所はネコの捕獲はしていないんだのにな。



質問タイムはこれまで！ネコさんとネコくんの話で少しはさくら猫に興味を持ってくれたかな？

ネコさん、ネコくんお疲れ様でした！

～あとがき～

今回地域猫について調べ、まとめさせてもらった事で家の周りの猫や、大学にいる猫たちがしっかりと世話されている子達でよかったと思いました。

このことがもっと多くの人に知ってもらえれば、野良猫と嫌がられず、さくら猫として受け入れてもらえると同時に捨てられてしまうような可哀想な事も無くなっていくと思います。

さくら猫として暮らす猫たちがどう思っているかは私たち人間には分かりません。しかし、この猫たちが人間社会の中で苦しめないようにする

地域猫という取り組みは猫にとっていい物であると考えています。この調査を終える頃には僕も機会を作ってボランティアなどの活動に参加してみたいとなりました。

今回初めての記事作りで大変でしたがとても楽しくもありました。僕は猫が大好きなのでこれが僕のゆうかりの最初の記事でとても嬉しいです！

この記事が地域猫について知ってもらえるきっかけとなり、地域猫のボランティアに参加してみようと考えてくれる人が増えてくれたらいいなあと思います。



- 出典：1 犬猫と共生できる社会を目指すことができる会（鹿児島）
2 地域猫活動（鹿児島市）
3 さくらねこ TNR とは（動物基金）
4 地域猫とは（NPO 法人動物たちを守る会ケルビム）



ソーシャルワーク実習 ―学生感想と教員のコメント

社会福祉学科では、社会福祉士国家資格の受験資格取得のために、3年生のときにソーシャルワーク実習を行う必要があります。今年度の学内代替実習について、分野ごとに、学生の皆さんからの感想や担当教員のコメントをいただきました。

障害児者分野 茶屋道拓哉先生担当

クライアントのストレングスと自分自身に目を向けたSW学内実習

3年4組13番 嶺崎 美紅

私自身が学内実習を通して「一番成長した」と感じたことは、クライアントのストレングスを探し出すことが、以前より格段にできるようになったことだ。この実習で学んだ「リフレーミング」の考え方を常に念頭に置いてクライアントと接するだけでも、支援が違ったものになってくると考える。SWerに相談に来るクライアントは、自信を失くしている「パワーレス」な状態にある方がほとんどだと思う。面接を通し、「クライアントの良いところ、ストレングス」がどこにあるのか考え、ほんの些細なことでも気づいたら、その人にちゃんと伝えられる人になりたいと思うようになった。

今年は「学内実習」ということで、障害児・者分野だけでなく、高齢者分野、児童分野など、様々な福祉分野の全体指導を受けたことで、より一層SWへの理解が深まった。どの分野においても、SWの理念や技術が通ずることを理解できた。将来、どの分野のSWerになったとしても、学内代替実習で学んだ基本姿勢を忘れずに支援にあたっていきたい。

最後の実習の日に「総括」という形でスーパービジョンを受ける時間があり、そこで興味深い話を伺った。それは「自分自身のための支援」という内容だ。「クライアントのための支援」について考える機会は何度もあったものの、「自分自身のための支援」について初めて伺い、衝撃を受けた。話を聴いていく内に、「クライアントのための支援」はもちろんのこと、その支援をするためにも「自分自身を満たす支援をすること」の大切さに気づかされた。確かに、まず支援者側が「幸せ」を理解していないと、クライアントの「幸せ」に関わっていくことが難しい。これからは、自分自身の生活の豊かさ、人との繋がり大切さにもっと目を向けていきたいと思うようになった。

最後に、ご多忙にも関わらず、学内代替実習の全体指導を引き受けてくださった全ての外部講師の先生方、並びに、私達実習生の指導にご尽力くださった実習担当の先生方、実習支援課の方々に深い感謝を申し上げたい。

医療分野 山下利恵子先生担当

ソーシャルワーク学内代替実習を通して

3年1組2番 稲村 陽香

本年度のソーシャルワーク実習は学内代替実習となり、最初は十分な学びを得られるか不安でした。しかし、最初に希望した医療の分野だけではなく、他の分野も学ぶことができ、他の分野を学ぶことができたからこそ、私自身の関心のあった分野を違う視点から見ることができ、考えを深めることができました。とくに課題に挙げた災害支援に関しては、どの分野でも学ぶべきことだと思いました。今回の実習のなかでは避難所運営と被災地支援の

DPAT について学びましたが、私が実習を予定していた医療現場ではどのようなことが求められるのだろうかと考えることができました。私は医療現場では患者様の命を守るために一緒に避難すると考えました。避難後も命を守るための支援が他の分野より求められると思います。

また、専門職の在り方として、私自身も被災者となったとき、ソーシャルワーカーとして、支援にまわるべきか否か、ということも考えさせられました。私自身のなかでの答えはまだはっきりとはできていませんが、私自身のそのときの状況に合わせて支援できる状態だったら、専門職としてその職務を全うしようと考えています。

本年度のソーシャルワーク実習は学内代替実習だったからこそ、多数の講師の先生方から、ソーシャルワークについて学ぶことができました。また、その先生方のソーシャルワークの考え方や大切にしているものからソーシャルワークの偉大さを感じ取ることもできました。ただ、わからないことも多くあります。しかし考え続けることが必要だと思っています。生き方が多様化し、生きづらさを抱えやすくなっている現代社会で、本当に今ある施策や支援が適切なのか、人権が守られているのか、何が必要なのか、何を大切にしないといけないのかなどを考えながら生きていくべきだと感じるすることができました。私にとって、ソーシャルワーク学内代替実習は本当に充実したものでありました。今後の学びに活かしながら、さらにソーシャルワークについて学びを深めていきたいと思っています。

最後になりますが、コロナ禍で急な学内代替実習になったにも関わらず、多数の先生方にご指導承りました。この場を借りてお礼申し上げます。

子ども分野
有村玲香先生担当

ソーシャルワークの子ども分野実習を振り返って

3年4組1番 宇戸口 美優

1ヶ月の学内実習を振り返って、今回新型コロナウイルスの流行で実際の現場に行くことができず、悔しかった。児童分野において現場でしか学ぶことができないこと、自分の足で関係機関へ行くことができなかったこと、自立支援計画の作成、子どもの保護から退所までのプロセスなど専門的に学ぶことができなかったことは残念だった。

しかし、学内実習だからこそできたことも多かった。普段の実習では専門分野をより詳しく学ぶが、今回の実習では他分野の職種やソーシャルワークを学ぶことができた。同じ社会福祉士でも分野によって違いがあることを学ぶことができた。また、児童、高齢、障害など様々な施設で行われている支援方法や、病院や被災場所で行われている支援など初めて学ぶことができた。将来のことを考えたとき、現場実習ができなかったのはほんとに悔しいと思ったが、学内実習に変わったことで他分野を詳しく学ぶことができたのは良かったと思っている。

実習では信頼関係という言葉をよく聞いた。実際に信頼関係がないと利用者のニーズにあった支援ができていないかわからない。信頼関係を築き上げるための、コミュニケーションスキルを身につけるよう、日頃からSWの技術の獲得と向上に向けて努力したい。

子ども分野
有村玲香先生担当

ソーシャルワークの子ども分野実習を振り返って

3年5組6番 竹下 侑輝

今回のソーシャルワーク実習を振り返ってみて印象に残っていること、学んだことは、4つあった。1つ目は、社会福祉士の専門性である。専門性の向上のために必要なことはソー

シャルワークの「価値」の理解が必要であり、人間みな平等で尊厳を有していることを認め、これを尊重することを基盤に置くことが大切であることである。

2つ目は、保育ソーシャルワークが私の中で、印象に残っており、仕事内容としては、保育に関する相談、育児・子育てに関する相談、解決を手助けしてくれる仕事だと学んだ。

3つ目は、個別支援から地域支援への広がりを知ること、支えあいマップの活用、支えあいマップからでてくる課題を深め、解決策を見つけることについて理解した。

4つ目は、里親制度の現状と課題について学んだ。今社会的養護を必要としている子どもたちがたくさんおり、当たり前な生活ができてない現状にあることが分かった。より家庭に近い生活を送れるように里親が沢山増えてほしいと思った。

以上の4つが実習を振り返ってみて印象に残ったことや学んだことだ。私は、まだまだ知識も技術も未熟なのでこれからたくさん身に付けていきたい。また、現場に出た際の利用者とのインテークでは、受容と傾聴を意識し、誰からも気軽に相談してくれるような周りを笑顔にできるワーカーになりたい。

**福祉事務所分野
大山朝子先生担当**

**SW実習を終えて
3年5組12番 溝辺 響希**

今年度のSW実習は感染症の流行により計画していた施設実習から学内代替実習という形に変更し行われた。実習プログラムは第1週が職場実習、第2週は職種実習、第3週はソーシャルワーク実習、第4週は実習分野ごとの事例検討などを中心とした内容となった。

とくに印象に残っているのは、鹿児島県社会福祉士会の東和沖先生による講義「福祉事務所におけるソーシャルワーク（相談援助）について」であった。本来なら奄美市福祉事務所でSW実習を行う予定であったこともあり、福祉事務所の役割や意義、そして福祉事務所の主な業務である生活保護制度についての講義は関心を持ち聴講し、生活保護制度の運用において相談や面接、調査などにより生活保護受給の要否判定が慎重に行なわれていること、なかでも要保護者宅への家庭訪問や面接の際に重要な事、意識すべきポイントなどを深く理解することができた。福祉事務所は、行政機関のなかで地域住民からの要望等が最初に入ってくる機関であり、「社会福祉の第一線機関」ともいわれている。そのため、福祉に関する知識はもちろんだが、窓口や家庭訪問時のケースワークでは、ソーシャルワークの専門性としての技術や価値・倫理を意識し対応していくことが大切であるということを感じた。要保護者の話を聞き、共感しながら、何を望んでいるのかを理解し、非審判的態度で対応していくことは対人援助を行うにあたって基本的なことであるが、その重要性を改めて痛感し、福祉事務所におけるソーシャルワークの重要性についても考えることができた。

自分自身にとって初めての实習となるSW実習が学内実習に変更され、当初は不安も感じたが、あらゆる分野・職種の方々からの講義を聴講する機会を得ることができ、結果的には良い経験になったと感じている。今回の学びを振り返り、今後経験するであろう現場での実践に活かしていきたいと思う。

**高齢者分野
前山聡宏先生担当**

**ソーシャルワーク実習を終えて
前山 聡宏**

今年度の実習は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等の関係で初めて学内代替実習へ変更となりました。当時を振り返ると、感染者数の状況や制限が徐々に緩和されているように

思われた感もありましたので、不安と緊張の繰り返しの日々でした。私も含めどのような対応をすることが正しいのか、学生への不安の解消などわからないことが多い中、学内代替実習がスタートしました。

学内代替実習では、鹿児島県内からハイレベルな社会福祉実践等を指導していただき、オール鹿児島で学生へ福祉のおもしろさ、難しさ、ソーシャルワーカーの視点や働きかけなど、個別援助から組織、地域社会まで幅広く実践に基づく内容が数多く伝えられたことは学生にとって貴重な時間であり、多くの気づきを得たと感じています。その気づきをそのままにするのか、今後はどうつなげるのか、これからの学生の動向にも関心が高まります。

学生にとって少しでも実践の雰囲気を感じてもらえればと考え、私が特別養護老人ホームへ勤務したばかりの頃のエピソードを紹介します。25年以上前、私は介助員として勤務していました。今でいう介護職員です。私はケアをする合間にできるだけ利用者と会話をするように心掛けていました。初めからドンドン話をしてくれたわけではないのですが、徐々に話をして下さるようになると、介護に関する訴えだけでなく、個人的な自分の思いも話をされます。病気になる、受けた障害を受容できずに悩み、つらい気持ちをぶつけてきます。また、これまでの生活歴や人生観を話してくれる事もあります。会話ができる利用者ばかりではありませんが、会話をする中で感じたこととして、生活援助をする介護職員に話しているのではなく、対個人に話してくるようになります。時には、利用者の思いが自分自身に押し寄せてきて、つらくなることもあります。私たちが利用者に対して行うケアには、的確な援助と同時に、利用者の痛みや思いを共感すること、利用者が本音で話すことのできるような人間関係作りをすることが含まれていますし、そのことがとても大切なことだと思います。そうした人と人とのアナログなつながりから思いやりの気持ちを感じていただいて、少しずつ信頼関係のような利用者との親密な空気ができあがるような気がしています。

実習指導の中で感じたこととして、“本当はソーシャルワーカーになりたいわけではない”、“私はソーシャルワーカーに向いていないのではないかな”等々、自身で葛藤しながら、勉強や実習に追われているように感じる学生がいました。何となく大学へ来たという話も聞きましたが、正直、ソーシャルワーカーが人の生活に関連する責任のある職業であること、現代社会が福祉職に求めるニーズが高く多様化していること、それに伴い国家試験が難しくなっているように感じています。学習をすればするほど、このような状況を感じ頭の中が迷子になってしまう状況も理解できます。私にできることは実践の醍醐味を小出しにして伝えて学生のモチベーションや目指すべき方向を一緒に考えていくことなのだろうと感じていますので、学生と伴走しながらこの1年間実習指導を続けたなという感覚です。

私も含め関わる人すべてが初めての経験となった学内代替実習を経て、人と人をつないで援助していくソーシャルワーカーの姿勢と学生同士の仲間意識も高まり、この新型コロナという未体験の状況の中でも実習期間中に感染者等がなく無事に乗り越えられた奇跡と軌跡は、学生にとっても自信になると思いますし、この期間つらかったことや悩んだことはすべて必ず自分の役に立ちます。成長していく学生一人ひとりを今後も影ながら支えていけたら幸いです。

**社会福祉協議会分野
高橋信行先生担当**

自分たちの境遇を生かすも殺すも己の技量次第

高橋 信行

2020年 コロナは、さまざまなところに影響を及ぼした。

他大学の学生の中には、オンライン授業ばかりで、まだキャンパスライフを満喫していない学生もいたし、逆に毎日毎日大学に通う必要があるのかとの問題提起もあった。それはこ

の年、さまざまな実習プログラムを経験する予定であった学生たちにも降りかかってきた。実習において、対面での人と人との相互作用は大変重要である。しかし、ソーシャルワーク実習を選択した学生たちは、1ヶ月の間、講義や演習に近い形で、大学内での実習を余儀なくされたのである。ソーシャルワーク実習にとって、福祉現場と体験できないことは、致命的とも言えるほど、教育プログラムとしては痛手である。ただ、1ヶ月の実習を経験した学生達（10名）からはポジティブな発言も多く聞かれた。

おかげで、このところ「演習等」であまり実施できていなかった離島での学生報告や住民との交流が実施できた。学内実習では共通プログラムの他に、数日を使って、昨年度薩摩川内市社会福祉協議会上甕支所との協働事業（地域総合研究所清水基金プロジェクト）として行った、「甕島調査」のベースデータを使って、集計と分析を行い、「若者」「独居高齢者」「幸福感」をテーマに3つのグループに分かれ、集計結果と提言について、パワーポイントを使って発表するというを行った。その後、KJ法とマインドマップを使って、地域課題や解決策の検討を行った。

この夏の実習が、フィールドワークを伴う実習ではなかったこともあり、何とか薩摩川内市社会福祉協議会上甕支所においての調査分析の結果報告を体験させたいと考え、11月28日に、上甕老人福祉センターホールにおいて「調査結果報告会」を実施した。参加者は社会福祉協議会職員、民生委員・児童委員、行政、一般市民、学生等30名程度である。コロナ対策をとりながら、調査報告とワークショップを実施した。学生のパワーポイントを使った報告は、「独居高齢者の特徴」、「若者の特徴」そして「幸福感」についての3点で、これは今年度学内実習として行った集計分析の成果である。コロナ禍の中で、社協側から参加学生の人数制限等があり、すべての学生に体験させられなかったことは残念であったが、参加した学生は、社協らしい活動の一つは体験できたろう。学生には、通常では考えられなかった”strange days”となったが、今回の全体プログラムを通して学んだことをこれからの勉学に活かしてほしい。

黒澤明の「隠し砦の三悪人」の中で、敵に捕らわれた姫と六郎太に首実検にきた武将が六郎太に、過去の二人の勝負を振り返り、「勝負に負けた自分を何故殺さなかった。勝負に負けた侍を殺さないのは、情けに見えてこれほど、惨いことはない」と恨み辛みを言った時に、姫が一喝、「人の情けを生かすも殺すも、己の技量次第じゃ」と。困難な中で生きていくのは厳しいが、それらも力にしていく知恵とタフさが必要なのだろう。それが自分を一段と成長させてくれる。



精神保健福祉援助実習について

林 岳宏・岡田 洋一

本課程では、精神保健福祉援助実習とその関連科目である精神保健福祉援助実習指導Ⅰ～Ⅲ、精神保健福祉援助演習を連動させて、より深い気付きと学びが得られるような工夫を行っています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、実習が学内代替実習となるなど、大幅な計画変更がありました。ここでは、例年の実習計画に加え、令和2年度の実習についてご紹介させていただきます。



例年の年間スケジュールとしては、前期に精神保健福祉援助実習指導Ⅰで事前見学実習を行います。鹿児島市保健所ではスポーツ交流会などに参加します。また、鹿児島市精神保健福祉交流センター（通称は一とぱーく）、鹿児島県精神保健福祉センターでは講義を、県立始良病院、谷山病院では見学を、地域活動支援センターひだまりでは当事者との交流を行い、学びを深めていきます。実習指導Ⅱでは事前指導と、事前協議会を実施して、実習指導者との協力関係を築いています。しかし、令和2年度は、事前見学実習は一部にとどまり、特に当事者の方と交流する機会は持てませんでした。事前協議会はなんとか行いましたが、前々日の鹿児島市内でのクラスター発生と、当日の悪天候のため、学外関係者の欠席が相次ぐこととなりました。

例年は、夏季休業中に障害福祉サービス事業所8日間（64時間）と病院20日（160時間）、合計28日間（224時間）の実習を行います。令和2年度は学内代替実習となりました。事業所や医療機関の職員の方々や行政機関の職員の方々に、外部講師として対応していただきました。外部講師の方々に直接来学いただき、講義や演習、ワークショップをしていただきました。来学が難しい場合は、オンラインでつながせていただいたこともありました。例年ですと、学生は各事業所や病院に分かれ、学生同士が議論する機会は帰校日などになります。今回の代替実習では、学生は一緒にいましたので、講義や演習ごとにグループディスカッションをして、共に振り返りを行うことができました。学生が当事者の方と交流できる機会はほとんどありませんでしたが、一部ワークショップに当事者の方が参加して下さいました。また、職員の方が撮影する映像資料に参加して下さった当事者の方もおられ、学生からお礼のメッセージを送る形で関わる事ができました。

後期に入ると、実習指導Ⅲの中で、実習に関する学びを総括し、実習報告書を作成していきます。例年、そのプロセスの中で、経験的な学びを理論的な学びに深めていきますが、そ

ちらも令和2年度は特殊な形を取らざるを得ませんでした。学内代替実習の内容を大きく5つに分け、学生も同様に5グループに分かれ、グループごとにそれぞれの範囲の内容を小パクトにまとめ、学んだことや気づいたことをまとめていくこととしました。その発表の場である実習報告会は、例年どおり行うことが出来ました。実習指導者に加え、外部講師の方々にも参加していただきました。実習指導者や外部講師の方々からは、学生へ丁寧で貴重なフィードバックがなされました。代替実習についても、「現場ではできなかったですが、幅広い話を聞けたことは、良い機会となったのだろうと感じました」などといったご意見を多くいただきました。学生は、実習指導者や外部講師の方々からのフィードバックから、大きな自信と安心感をもらうことが出来たと思います。

また、例年、実習を行うことを含めた現場でのソーシャルワーカーとしての動きや視点、価値と倫理を通年科目である精神保健福祉援助演習で学びます。前期は主に現場に行く前の学生ならではの視点で、後期は実習を行った上での現場を知った深い洞察を含めた視点で学んでいきます。様々な事例をグループワークやロールプレイを通して実践的に学び、学生同士のディスカッションを通してチームアプローチの在り方を理解することが出来るようになります。この点においても、令和2年度は実際に現場を見ることができないという問題がありました。しかし、一方では、学内代替実習において多くの職種の方に、外部講師として実習に加わっていただきました。それにより、チームアプローチのあり方などにおいては、例年以上に理解が深まったのではないかと考えます。実際に、実習報告会の参加者の方々や、学生の事後アンケートからも同様の意見が多くありました。

実際の実習が行われる場合、学生は実習を通して、精神科病院や障害福祉サービス事業所の現状を学び、そこに生活する生活者としての当事者とその家族の方々の想いや葛藤、人間的理解を深め、自己覚知していきます。そして、当事者の生活する環境としての精神科病院や事業所の在り方に気づいていくのです。当事者とその家族に関わる医療スタッフや事業所スタッフへどのような想いを持っているのか、スタッフは当事者とその家族へどのように関わっているのか、さらに、当事者と家族の間にはどのような背景と葛藤、想いがあるのかを学生自身が見出すように支援します。

そのような状況の中で精神保健福祉士は当事者とその家族への関わり方、そして他職種のスタッフが精神保健福祉士に対してどのような理解をしているのかを学んでいきます。当事者と周りにいる家族やさらに彼らを支援している援助スタッフとの相互作用を見出すことが学生の課題となっているのです。最終的には学生自身の生き方について洞察し、自己覚知を図ることになります。

令和2年度の学内代替実習でも、学生自身の洞察や自己覚知は十分図れたものと考えています。確かに、当事者の方と接する機会は限られることとなりました。しかし、例年以上に多くの職員の方々と多くの時間を共に過ごし、学生同士も互いに深い議論を繰り返すことができました。学生間、また学生と実習指導者や外部講師の方々との間でも、例年以上に深い交流を持つことができました。このことは、学生が現場に出た際に大きな力になることと考えています。また、今後の実習のあり方にも、大きな示唆を与えてくれたものであったと考えています。

介護実習（介護福祉士課程）

岩崎 房子

介護福祉士課程は、受験資格取得までに 450 時間の介護実習が義務付けられています。今年度の実習は、新型コロナウイルス拡大に伴う感染予防の観点から、介護実習Ⅰ（1 年生：80 時間）、介護実習Ⅱ（2 年生：170 時間）、介護実習Ⅲ（4 年生：200 時間）、すべて学内実習に変更しました。この紙面では、夏季休業期間に学内で実施された介護実習Ⅱと介護実習Ⅲについて報告したいと思います。台風の影響もあり期間が若干伸びましたが、以下の内容を実施しました。

1 週目	介護技術	介護技術（8 項目） 実技事例検討会（2 事例）	施設実習 関連	2・4 年生
	現場とのリモート学習	3 回		
2 週目	外部講師による講義	1 名		
	外部講師による講義	8 名		
3 週目	教員による講義	講義・グループワーク		
	介護過程展開	事例展開（2 事例）		
4 週目	教員による講義	講義・グループワーク		
	レクリエーション	レクリエーション発表会		
5 週目	教員による講義	講義・グループワーク	訪問介護 実習関連	4 年生
	外部講師による講義	1 名		
6 週目	教員による講義	講義・グループワーク		

コロナ禍での実施ということで、毎日、学生と教員が協力して感染防止対策に取り組みました。さらに、新型コロナウイルス感染症の発生時および発生後の介護施設の実際の対応の様子を学んだり、感染予防についての講義や感染防護具の作成を内容に組み込みました。

今回は初めての試みということでもあり試行錯誤の学内実習となりましたが、受講した 2 年生、4 年生からは、「校内での実習ということで不安も多かったけれど、現場の話を聞くことができたり、事例検討会もできた。学内実習だったからこそで、とても学びや気づきが多かった」「グループワークを行うことで、自分だけでは考えられなかったことに気づくことができた」「先輩や同級生の意見を聞きながら実習を進めていくことができた。また、わからない時、すぐに先生に聞ける環境がよかった」「今回の実習を通し、先生方の講話、先輩方と関わることができ、生活を支える専門職として様々なことを学ぶことができた。とても充実した実習となった」とポジティブな声が多く聞かれました。

とはいえ、学内実習では、利用者様や職員の方々との直接的なふれあいを通して学び得る貴重な学びを学生に提供するには限界があります。これまでのように、あたりまえに学外での実習が行えるよう、新型コロナウイルスの収束を願うばかりです。

教育実習

古賀 政文

教育課程は、特別支援学校教諭、高等学校教諭（福祉、公民）、中学校教諭（社会）の教育職員養成を目的とする課程です。本学では、それぞれの免許状取得のため、主に5月から6月に掛けて中学校・高等学校での教育実習を、9月から10月に掛けて特別支援学校での教育実習を行います。

しかし、今年度は、新型コロナウイルスの影響で、実習期間の短縮や時期の変更、大学、受入学校側の体制等、大きな変更がありました。それでも、学生の皆さんは教育実習を無事終えることができました。

今年度教育実習を行った学生の感想を紹介します。（教育実習報告会の資料から）

中 学 校

アドバイス等

- 何でも自分から行動する。昼休みなど積極的に生徒と関り、触れ合う。(10)
- 実習前から教材研究・授業の構成をしっかりと行えば、とても有意義な実習生活を過ごせる。(9)
- しっかりと食事し、睡眠を取り体調管理に注意する。(4)
- 今からこつこつ準備しておく。事前準備が実習の余裕を生む。(3)
- 生徒の名前はできるだけ早く覚える。(3)
- 大変だったが、自分を大きく成長させてくれる場であり、人生でも中々経験することのできない時間である。(3)
- 最初は不安だったが、とても貴重な体験になった。(2)
- 本気で臨めば全て自分に返ってくる。(2)
- 専門教科以外に「道徳」の教材研究をしておいた方がよい。
- 実習中の大学の先生との連絡の取り方を確認しておく。
- 授業参観をお願いする先生への依頼は前日までに済ませ、授業を参観していただいた先生へのお礼もしっかり感謝の気持ちを述べる。
- 朝の挨拶運動への参加。
- 実習校の指導案の形式や書き方をリサーチしておく。
- 実習校への感謝、生徒・先生方への挨拶
- 事前の指導案作成が円滑な実習に繋がる。指導案を短時間に仕上げて質を上げる。
- 授業準備等に迫られるが、時間を上手く使って少しでも生徒と関わるのが大切。信頼関係を築くことが授業にも影響してくる。
- 大学からは丁寧なサポートをしていただいた。
- ICT教育にも積極的に取り組む。

- 困った時には、早めに指導教員に相談する。
- 生徒の生活の記録にはしっかりとコメントを書いて返す。コミュニケーションのきっかけにもなる。
- 生徒のための授業づくりの意識をもつ。
- 部活動への参加もするとよい。
- 学校には独自のルールがあるので、事前の確認が大事。
- 教採と重なるので早めの準備で踏ん張って、後悔しない道を。
- 授業参観はできるだけした方がよい。
- 知識力だけでなく人間力も磨く。
- 指導案作成は大変、指導案作成に慣れておくべし。
- 深い教材研究が大事。
- 自分に妥協しない。したら力は付かない。
- 苦しいときは、仲間や大学の先生、実習支援課の方などに相談すると気が楽になる。
- 模擬授業の回数を増やす。
- 教師であることと人間であることの両面で生徒に接することの難しさを感じた。
- 緊張や悩みが多いが、一番に生徒の「わかった。」をもらうことを目標とすれば自分がやるべきことが見えてくる。
- 大学で学んだ総合力でチャレンジを。

高等学校

アドバイス等

- 実習に行く前にできることは全てやって、実習教科全体の勉強をしておく。(2)
- 指導案作りに追われないように、前もって慣れておくことが大事。指導案のパターンを複数準備しておくとうい。(2)
- 1週目から勇気を出して生徒と関わっていく事。
- 人生で1度の貴重な経験。
- マグネット類を準備しておき、短冊やカードなどを活用する。
- パワーポイントやワークシートなどを活用して指導法を多様に準備しておく。
- 睡眠時間不足になりがちなので、時間の有効活用が大事である。
- 緊張や不安で一杯だったが、自分を大きく成長させてくれる場である。
- 不安なことは先生方、実習支援課に積極的に相談するとよい。
- 実習費の内訳について実習支援課からもう少し詳しい説明がほしい。
- 実習期間中のパソコンの貸し出しの決まりや延長について確認しておく。
- 授業参観の後にはできるだけ、授業者の先生に質問したい。
- 実習は大変で苦しいこともあるが、生徒に関わることの楽しさや、終わった後の達成感など多くの経験ができ勉強になる。

成 果

- ・ 生徒一人一人の実態把握がとても重要であることが身をもって感じる事ができた。(4)
- ・ 多くの生徒、教職員と関わる事ができ、多くのことを学ぶ事ができた。(3)
- ・ 実習を通して、生徒たちのよいところを探し、知ることができた。また、障害の理解も深まった。(3)
- ・ 一人一人の将来性を考えて、指導することができた。成長を感じる事ができた。(2)
- ・ 研究授業では、授業計画から実施まで、担当の先生の指導を受けて、悩みながらも無事に授業を終える事ができた。
- ・ 自ら積極的に生徒たちと関わり。生徒たちの実態に合わせて動けるようにした。
- ・ 配当学級の生徒だけでなく、他の学年や学部の子童生徒とも関わりたいと思っていたため、昼休みを一緒に過ごしたり、作業学習で他の学年の生徒と話したりして、多くの子童生徒と関わる事ができた。

課 題

- ・ 生徒とのコミュニケーションにおいて、どこまで自分が関わってよいか、分からない部分があり、自分から積極的に関わる事ができなかった。
- ・ 教材・教具の工夫において、困ることが多く、実態に応じた教材・教具を作成することができなかった。(2)
- ・ 子童一人一人の実態に応じた指導案の作成が難しかった。
- ・ 生徒に説明する際は、生徒にとって分かりやすい言葉で話す。
- ・ コロナ禍等の影響で実習期間が短く、生徒の実態把握が不十分であった。
- ・ 研究授業で実際に実践してみて計画とおりできず、反省する点があった。
- ・ 授業の時間配分がうまく行うことができなかった。
- ・ 授業は一方的に行うものでなく、生徒の様子をしっかり把握しながら行う。
- ・ 授業行う際、生徒の質問に対して、直ぐ答えるのではなく、ヒントを伝えるなどして、生徒たち自身が考える時間を設定する。
- ・ 教師としての接し方や在り方などよく多くの配慮事項があることを知った。(2)
- ・ 授業を通して何を伝えたいかが明確にできなかった。
- ・ 授業の中で、生徒への声掛けが平等にできず、偏ってしまった。
- ・ 経験を積んで、臨機応変さを身に付けたい。

アドバイス等

- ・ 実習では、分からないことがあったら自己判断で行動するのではなく、報告・連絡・相談することが重要である。
- ・ 今のうちから指導案作成の練習や特別支援に関する知識を蓄えておいたら、少しでも実習が充実したものになる。「,」を使う。
- ・ 生徒たちに助けられて、教育実習を乗り越えることができる。

- ・ パソコンやプリンタなどの事前準備をする。
- ・ 実習期間中の土・日曜日の過ごし方を充実させる。(教材準備、指導案作成)
- ・ 教材準備を徹底する。
- ・ 生徒が五感を使って学べるような授業を行う。
- ・ 生徒との関係はメリハリをつける。
- ・ 実習が始まる前は大変だと思っていたが、実際は短しむことができた。



コロナ禍の中、新ゼミⅡで最初のオンラインクイズ大会が開催される！

松元 泰英

今年度の新ゼミは、コロナ禍により、学習内容の大きな変更を強いられました。実は、10月鹿児島で開催予定だった第20回全国障害者スポーツ大会へ、ボランティアとして一年生全員の参加が決まっていたのです。ところが、ご存じのように、新型コロナウイルス感染拡大のため、国民体育大会と共に障害者スポーツ大会は2023年へ延期になってしまいました。そのため、予定していたシラバスの内容にかなりの変更を行いながら、対面授業とオンライン授業を並行し、授業を行う羽目になったのです。オンライン授業は、学生が初心者なら、教員だって似たり寄ったりの素人です。パソコン関係が得意な先生方はサクサクやっていましたが、パソコンが苦手な私などは、ヒーヒー言いながら授業を行う羽目になりました。さらに、例年新ゼミⅡでは施設訪問が学習の中心となっているのですが、このコロナ禍の中、もちろんできるわけありません。そこで、このコロナ禍を象徴するようなクラス対抗オンラインクイズ大会が実施されることになったのです。前置きがかなり長くなりましたが、コロナ禍ならではの授業へ新ゼミ担当者軍団はシフトチェンジしたのです。幸い、パソコンサクサクの永富先生が中心となって、第一回オンラインクイズ大会を実施する運びとなりました。学生に最も近い年齢の永富先生は、学生が喜びそうなクイズの内容を次々と考案し、大盛況のうちにオンラインクイズ大会は無事終了しました。以下に、実際のクイズ大会の内容を紹介します。

- ① 変化する写真クイズ……変化する写真を見破るクイズ
- ② 穴あき写真クイズ……隠された写真が何かを見抜くクイズ
- ③ 「はあ」て言うゲーム……同じ「はあ」でも、色々な「はあ」があります。例えば、とぼけの「はあ」、感心の「はあ」等。各クラスの代表者に気持ちを込めて言ってもらい、その気持ちを当てるゲーム
- ④ 先生の四択クイズ……各先生に体験を話してもらい、正解はどれかを選択するクイズ

各クラスともかなり盛り上がり、ゲーム終了後、アンケートを取ったところ、ほとんどが肯定的な意見で新ゼミ担当者軍団はほっとしているところです。以下、アンケート結果の一部です。

良かった点……先生の意外な点や面白い話が聞けた。

ゲームを通してクラスの間で打ち解けることができた。

クラス対抗で、クラスの絆が深まった。

オンラインでのクラス対抗という新感覚のゲームだった。

改善点……ハード面に不都合な点（画面の大きさや音の聞きづらさ）が見られた。

これらのアンケートを参考にしながら、来年度もさらにバージョンアップされたオンラインクイズ大会を挙行したいと思っています。

「演習論文報告会」の報告

演習論文委員 岩崎 房子

社会福祉学科では、4年生が取り組んだ演習論文の成果発表の場として「演習論文報告会」を開催しています。例年であれば12月上旬に口頭発表を行っていますが、今年は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、ポスター形式での報告会に変更しました。開催期間は、12月11日（金）～18日（金）までの8日間、5号館1階学生ホールにて開催しました。今回は、日頃から関心のある事柄を福祉というフィルターを通して執筆した7本の力作が出揃いました。報告者およびテーマ一覧は、以下のとおりです。

	報告者	テーマ	ゼミ
1	高嶺 陽光	犯罪と社会福祉	佐野ゼミ
2	古屋 輝気 多々隈 完 川原 将希 東 大翔	新型コロナウイルスは私たちの生活にどのような影響を与えたか	松元ゼミ
3	鳩野 祥菜	日本における乳幼児期の人間形成の場は確保されているか	岡田ゼミ
4	濱平 真維	現代日本におけるDVの現状と課題	
5	徳永みなも	ネットカフェ難民について	高橋ゼミ
6	吉永 力康	幸せについてー幸せの指標と若者の幸せー	岩崎ゼミ
7	藤貫 愛加	日本の公的年金に関する一考察～制度改正を通して～	山下ゼミ

学生ホールでの開催（ポスター掲示）ということで、休憩をしながら多くの学生が目を向けていました。掲示されている原稿を読んだ2年生の寺田優哉くんは、「4年生になったら演習論文を書くことは知っていたが、どういう風を書くのか漠然としていた。先輩方の論文を読んでイメージがついた。またそのことと同時に、自分が先輩方のように書くことができるか、少々不安も出てきた。」と感想を話してくれました。同じく2年生の蘭田龍玄くんは、「興味関心のあるテーマを突き詰め、自分の考えがきちんと文章にまとめてあり、勉強になった。」と話してくれました。

4年生は、「学生生活4年間の集大成」である演習論文を書き上げたという自信をもち、社会人になっても何事にも探求心を持って取り組んで欲しいと思います。また、下級生は、演習論文のイメージがついたのではないかと思います。参考にして演習論文の執筆に取り組んで欲しいと思います。



今後の社会福祉学会自主研究助成による活動を考える新たな1歩

永富 大輔

今年度の社会福祉学会自主研究助成による活動成果報告会は、コロナウィルスの広がりに伴い、演習論文報告会と同様にポスター発表ということになりました。今年度は、コロナウィルスによる感染症の影響、広がりを予想することが困難であり、同時に様々な制限が伴うことで、活動することが非常に難しかったと思います。そのような中でも、計画の見直しや訪問先との連絡を行い、感染予防を徹底させて活動に取り組まれたことは非常に高く評価できると思います。また、そのような活動をポスター発表として報告できたことは非常に喜ばしいことです。

今回の活動報告では子ども食堂についてまとめられていました。子ども食堂では、主に2つの目的があります。1つは、子どもの貧困対策です。総務省統計局が報告している「労働力調査 (<https://www.stat.go.jp/data/roudou/index.html>) 2020年12月28日最終閲覧」によると2020年度は2月から11月まで完全失業者の人数は増加しており、過去の年度に比べても高い値を示し続けています。このような状況で貧困対策としての子ども食堂の役割は非常に高いと考えられます。もう1つは、地域交流の場の提供です。公共財団法人生命保険文化センターの「出産・育児に関する報告 (<https://www.jili.or.jp/lifeplan/lifeevent/birth/2.html>) 2020年12月28日最終閲覧」で2019年までの出生数と合計特殊出生率が報告されていますが、2019年で過去最低の出生数となったことが示されています。このような現状において、育児家庭の孤立化が考えられます。特に、今年度は外出の自粛もあり、積極的に自分から相談する家庭も少なくなったことも考えられ、地域でコミュニティを作る活動の役割も非常に高いと考えられます。

今回の学生の報告では、これまでの子ども食堂の歴史や現状をしっかりとまとめられており、内容においても今後考えていかなければならない、とても良いものであったと思います。

ここで、今回新たな挑戦として一步を進めた社会福祉学会の自主研究助成の今後の期待を含め、2点の課題を示させていただきます。1つ目に、活動を行う上での支援です。今年度、大学1年生の学生が積極的に活動を行い、報告してくださったことは非常に高く評価できます。一方で、今後、学生の活動を積極的に推進するためには、個人情報保護の方法、活動協力や活動から得た情報を報告することの同意書の作成、報告する際の情報の出典の示し方（例えば、ホームページの記載内容なのか、論文や報告書の引用なのか）などは社会福祉学会に所属する教員が指導・支援するシステムが必要になってくるのかもしれません。2つ目に、報告会の方法です。今年度、学生が一生懸命に取り組み、報告資料も作成してくれましたが、資料を閲覧した教員、学生からのコメントが報告者の学生に届かなかったことは残念なことであります。今後は、オンライン報告会やポスター作成者の発表会、もしくは同時開催の機会を設定することで活発な意見交換が行われることも考えられます。

最後になりましたが、この場をお借りしまして、今回社会福祉学会自主研究助成に応募し、制限された環境で活動に取り組み、報告してくださった学生の皆様を称え、終わりとさせていただきます。お疲れ様でした。

鹿児島県の子ども食堂の現状と課題ー A 子ども食堂の現状と課題ー

社会福祉学科 1 年 池之上 友里寧・重山 瑠花

玉利 元樹・濱村 和璃

I. はじめに

子ども食堂の広がりが全国的に加速している。子ども食堂とは、無料または低価格で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場である。子ども食堂は、東京都大田区にある八百屋の店主が貧困や親の多忙からご飯を満足に食べていない子どもが増加しているということを知り、自らが営業している八百屋の一角に子どもたちが食事をできるスペースを設置したことがきっかけである。活動の主体となるのは、地域住民や NPO で、多くが地域に住む高齢者や大学生である。子ども食堂は 2016 年には 319 か所であったが、2019 年 6 月時点では全国に 3700 か所になり、3 年で 10 倍以上の数にまで増えた。厚生労働省においては、子ども、高齢者、障害者などすべての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会の実現が目的とされている。これまで子ども食堂は貧困の子どもに食事を提供する場所と思われがちであったが、実際には子どもをきっかけに地域の様々な世代が集う交流拠点という側面もある。鹿児島県においても年々子ども食堂の数が増えている現状である。そこで今回は、鹿児島県における子ども食堂の動向および A 子ども食堂の現状と課題について述べる。

II. 目的

鹿児島県の子ども食堂の動向および A 子ども食堂の現状と課題について調査し今後の活動の示唆を得る。

III. 方法

調査方法は、A 子ども食堂の代表者および B フードバンクの代表者へのインタビュー法である。

IV. 結果及び考察

1. 日本の子ども食堂の動向

日本の子ども食堂については、農林水産省は第 3 次食育推進基本計画（2016 年 3 月）において、重点課題のひとつに多様な暮らしに対応した食育の推進をあげ、地域や関係団体の連携・協働を図りつつ、子どもや高齢者を含む全ての国民が健全で充実した食生活を実現できるよう、共食の機会の提供などを行う子ども食堂の活動を推進している。一方、厚生労働省は民間主導の子ども食堂の活動の高まりを受け、「子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知について（通知）」（2018 年 6 月）には、子ども食堂が子どもの貧困のみならず、地域の交流拠点としての役割を果たすことを期待する旨が記されている。さらには、文部科学省から「子ども食堂の活動に関する福祉部局との連携について（通知）」（2018 年 7 月）において、学校や社会教育施設と地域の積極的な連携など、いずれにおいても地域共生社会の実現に向けた役割を期待する内容が示されている。

子ども食堂は、主に民間主導の活動であるが、近年は大手食品メーカーやコンビニエンスストア、ファストフード業界が参入しているという現状がある。日本の子ども食堂の設置数は、全国では 3718 か所（2019 年）であった。設置数の多い都道府県は東京都（488 か所）、大阪府（336 か所）、神奈川県（253 か所）の順であった。一方、設置数の少ない都道府県は秋田県（11 か所）、富山県（15 か所）、山梨県（16 か所）の順であった。子ども食堂の

増加率は、全国平均 80.3%（2019 年）であった。増加率の高い都道府県は長崎県の 228.6%（7 か所→23 か所）、茨城県 226.3%（19 か所→62 か所）、福島県 215.4%（13 か所→41 か所）の順で、いずれも 3 倍以上の増加であった。また、青森県、埼玉県、新潟県、石川県、岐阜県、愛知県、兵庫県、広島県、山口県、徳島県の 10 県は 2 倍以上の増加であった。このように、日本の子ども食堂の数は年々増加している。子ども食堂の認知度（2019 年）は、「名前を聞いたことがある」（82.1%）、「名前を聞いたことがあり内容も知っている」（48.9%）、「名前を聞いたことはあるが内容は知らない」（33.2%）であった。性別・年代別に見ると、女性の 30 歳代以上の認知度が約 6 割を高く、一方、男性の 40 歳代未満の 3 割が「名前も知らない」と回答しており、年代や性別による認知度の差が明らかになっている。

2. 鹿児島県の子ども食堂の現状

鹿児島県の子ども食堂の設置数（2020 年）は 49 か所であった。地域別にみると鹿児島市地域は鹿児島市、いちき串木野市、日置市（20 か所）、南薩地域は南さつま市、南九州市、枕崎市、指宿市（7 か所）、北薩地区は薩摩川内市、出水市、阿久根市、さつま町（3 か所）、霧島地区は霧島市、始良市、伊佐市、清水町（4 か所）、大隅地区は曾根市、志布志市、垂水市、鹿屋市、大崎町、東串良市、肝付町、錦江町、南天隅町（10 か所）、離島地区は薩摩川内市、三島村、西之表市、中種子町、屋久島町、南種子町、十島村、龍郷町、大和村、奄美市、瀬戸内町、宇検村、天城町、徳之島町、知名町、和泊町、与論町（5 か所）と、年々増えていることが明らかになった。

子ども食堂の運営においては、個人からの食材や食品の提供を受けているところも見受けられるが、フードバンクからの食材や食品の提供に頼っているところが多い現状である。鹿児島県のフードバンク（2020 年）は 2 か所であった。NPO 法人フードバンクかごしまでは食品関連企業や農家、個人などから食品の提供を受け、鹿児島県内の児童養護施設や母子寡婦支援施設、路上生活者支援団体、高齢者生活支援団体などの元へ届ける活動をしていた。NPO 法人フードバンクお助けマン霧島では、県内の子ども食堂に無償で食材を提供していた。農作物や冷凍・冷蔵品を取り扱う国内でも数少ないフードバンクである。

3. A 子ども食堂の現状と課題

A 子ども食堂は、毎月第 3 土曜日の 12 時から 14 時の 2 時間に開催している。料金は 18 歳未満無料、18 歳以上 100 円以上となっている。利用者数は毎月平均 20 人程度（大人を含む）である。運営スタッフは主催者 1 名、調理ボランティア 6 名、一般ボランティア 5 名（学生ボランティアを含む）である。食事内容は野菜や魚、肉類、果物を主としたメニューである。A 子ども食堂においては友達や家族、地域の方々と楽しく会話をしながら食事をする子どもたちは、開催当初に比べ徐々に増えている状況である。しかしながら、今年は新型コロナウイルス感染リスク対策もあり、毎月の開催には至らなかった。子ども食堂開始当初に比べ地域に方々の認知度も高くなっている。しかしながら、高齢者や家族の理解を得にくいという問題もあり、今後は、地域の方々の認知度を高くする啓蒙活動が必要である。そのためには、高齢者や家族も参加できるような工夫が必要であることや、運営資金やボランティアなどの人材確保が課題であることが明らかになった。

V. まとめ

鹿児島県では、貧困家庭の子どもや一人暮らしの高齢者など社会的に孤立する人が増えるなか、共に支え合って生活することができる安心な地域をつくる活動として、子ども食堂が注目されている。今回の調査をとおして、子ども食堂は、子どもの貧困救済ばかりがクローズアップされてきたが、地域共生社会を目指して、子どもを中心とした地域の支え合いをつくる活動であることが理解できた。今回の調査結果を踏まえ今後の活動に繋げていきたいと考えている。

2020年度演習論文テーマ

岩崎ゼミ

氏 名	論文題目
神保 哲汰	お酒との付き合い方
中嶋 勝志	時代によって変化する食
西ノ園 将志	SNS 時代を生きる若者の自殺
吉永 力康	幸せについて
安元 裕人	大麻の危険性と合法化について
山方 志穂	書道について
里林 育実	韓国アイドルが与える影響
坂口 穂高	ジェンダーレスな社会への理解
高附 佳乃	猫が人に与える影響とアニマルセラピーについて
竹ノ内 佑輔	コロナウイルス感染拡大により影響を受けた飲食店の経営に関する一考察
東 祐太	持続可能な開発目標（SDG s）について

上田ゼミ

氏 名	論文題目
上田 悠里香	(共同執筆) 福祉系大学生におけるアルバイトの 就労と精神的健康との関連
東郷 竣一郎	
大井 一矢	(共同執筆) 介護老人福祉施設における夜間勤務者の疲労の実態
西牟田 卓也	
橋口 大希	

鉾 省吾	青年期の男子におけるスポーツと睡眠との関連
清野 賢弥	高齢者施設の食事形態について
中原 一輝	大学生の睡眠健康の実態

大山ゼミ

氏 名	論文題目
小野 清香	いじめについて
小倉 知歩	児童相談所の求められる役割について ―現状と課題―
元見 竜也	アルコール依存症 ―それに関わる個人と家族、社会への影響
出原 龍樹	ありのままの自分とは ―私が22年間生きて思ったこと―
大重 朱音	児童虐待事件における「加害者」について考える
田口 遥香	日本で働く女性の現状と課題 ―明るい社会を目指して―
文 裕貴	新型コロナウイルスへの対応について

岡田ゼミ

氏 名	論文題目
濱平 真維	現代の日本における DV の現状と課題
甲斐 康平	パーキンソン病患者の闘病の実態と家族が抱える問題
三谷 麗香	知的障害者の現状と課題
和田 恵	パラリンピックへの関心・認知度
鳩野 祥菜	日本における乳幼児期的人格形成の場は確保されているのか ―先進国との比較で検討する―

古賀ゼミ

氏 名	論文題目
永野 海玲	ALS 患者への心のケア
屋宮 和竜	現代の学校におけるいじめの要因といじめに対する対策について
市之瀬 宝丸	ダウン症児のことばの発達と指導

氏 名	論文題目
下田平 啓嗣	知的障害児者の家族への支援
山本 春来	吃音（症）のある児童生徒への支援について

佐野ゼミ

氏 名	論文題目
高嶺 陽光	犯罪と社会福祉
田中 俊矢	あおり運転
野間 悠太	依存症から見えてくるもの
劉 玉恒	日本における社会福祉の発展過程から考える中国における社会福祉の将来像

高橋ゼミ

氏 名	論文題目
徳永 みなも	ネットカフェ住民について ―ネットカフェ住民と今―新聞報道から―

松元ゼミ

氏 名	論文題目
有原 蓮	教育におけるバーチャルリアリティの活用
立花 澄玲	わくわくする授業づくりについて
泊 由梨佳	発達障害の現状と支援方法について
橋元 圭太	学校と特別支援学校の教育実習を通して見えてきたこと
柳橋 勇佑	普通教育と特別支援教育の違いについて
富田 大城	普通教育と特別支援教育の違い
古屋 輝気	（共同執筆） 新型コロナウイルスは私たちの生活にどのような影響を与えたか
川原 将希	
多田 隈 完	
東 大翔	

村上ゼミ

氏 名	論文題目
葉 林	映像に基づいた日本の社会問題の考察
東條 悟武	現代の男性アイドルと映像との関係性
岩元 悠太朗	ボンタンアメについて
日高 育実	ゲームの表現方法の時代的差異 ―「マリオシリーズ」を題材として―
積 ゆめか	ゲームの表現方法の時代的差異 ―ゼルダの伝説シリーズを題材として―

山下ゼミ

氏 名	論文題目
上原 雅己	認知症と睡眠の関係性
吉留 朱瑞	音楽療法について
椎原 彩華	働く女性の輝いた社会とは ―ワークライフ・バランスを手掛かりにして―
石堂 奈央	AC のことを知り、理解する ―機能不全家族の中で生きづらさを抱えている人の回復を検討する―
白川 実怜	児童虐待施策の展開と課題 ―目黒区の事例を参考に―
藤貫 愛加	日本の公的年金制度に関する―考察 ―制度改正を通して―
黒岩 基樹	アメリカの社会保障 ―その背景と特徴―
山村 ひかり	子どもの貧困について考える ―子どもの貧困対策による子ども食堂に着目して―
福地 優希	就労系福祉サービスの現状と課題
前田 純	障害者雇用の制度と歴史



鹿児島国際大学社会福祉学会会則

【総 則】

第1条 本会は、鹿児島国際大学社会福祉学会と称し、本会の事務所を鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科に置く。

第2条 本会は、学術研究を推進し、会員相互の学問的交流を促進するとともに、地域社会の文化的発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(ア) 会報ならびに機関紙の編集・発行
(イ) 研究会・講演会等の開催
(ウ) その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事業

【組 織】

第4条 1. 本会は、福祉社会学部社会福祉学科並びに大学院福祉社会学研究科に在籍する学生および両科の専任教員をもって会員とする。
2. 準会員については、別に定める。

第5条 1. 本会に次の機関を置く。
(1) 会長
(2) 総会
(3) 運営委員会
(4) 監査委員
2. 会長は、社会福祉学科長とする。
3. 運営委員(教員4名、学生8名以上)および監査委員(教員2名、学生2名)は、社会福祉学科で選出し、総会の承認を得るものとする。
4. 前項の各位委員の任期は、教員については2年、学生委員については1年とする。
ただし、再任は妨げないものとする。

【機 関】

第6条 1. 会長は、本会を代表する。
2. 会長は、年1回の定期総会を招集しなければならない。
3. 会長は、運営委員会の議決に基づいて臨時総会を招集することができる。

第7条 総会は、本会の最高議決機関である。

第8条 1. 運営委員会は、総会の承認により、学会の運営にあたる。
2. 運営委員会は、委員長(教員)と副委員長(学生)の各1名を互選する。
(1) 運営委員長は、運営委員会を代表し、定期および臨時に運営委員会を招集する。
(2) 運営委員会は、そのもとに必要に応じて委員会を置くことができる。
3. 運営委員会は、教員委員および学生委員のそれぞれ過半数の出席によって成立する。

4. 運営委員会は、次の事項を審議決定しなければならない。
- (1) 年間事業計画
 - (2) 予算案および決算書
 - (3) 会則の改正ならびに諸規定承認・改廃
 - (4) その他必要な事項
5. 運営委員会の議決は、出席した教員委員および学生委員のそれぞれの過半数の賛成で決する

[財 政]

第9条 教員会員の会費は、年額2,500円とし、年度初めに納入する。学生会員の会費は、年額2,500円とし、入学時に一括納入する。

第10条 1. 本会の経費は、会費・補助金・寄付金でまかなう。
2. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第11条 会費の徴収、保管および支払いについては、大学事務局に委任するものとする。

第12条 運営委員会は、毎年会計年度終了後2ヶ月以内に決算を行い、監査委員の監査を受けたいで総会に報告し、その承認を得なければならない。

[改廃手続]

第13条 本会則の改廃は、運営委員が発議し、総会の決議を経なければならない。

附則

- 1. この会則は、昭和57年4月1日から施行する。
- 2. この会則は、平成13年7月27日に改正し、施行する。
- 3. この会則は、平成15年7月4日に改正し、施行する。
- 4. この会則は、平成18年4月1日に改正し、施行する。
- 5. この会則は、平成20年4月1日に改正し、施行する。

2019(令和元年)年度 鹿児島国際大学 社会福祉学会 収支決算報告

収入の部

項 目		決 算	予 算
前年度繰越金		2,191,331	2,191,331
会 費	800,000	800,024	743,250
参加費	0		
雑収入	24		
寄付金	0		
収 入 計	800,024		
		2,991,355	2,934,581

支出の部

項 目		決 算	予 算
「演習論文要旨集」発行費	126,500	990,222	99,900
会 議 費	0		10,000
自主研究助成費	50,000		150,000
新入生歓迎行事費	240,000		240,000
卒業パーティー開催費	0		240,000
「ゆうかり」発行費	495,000		499,500
講演会開催費	77,224		150,000
事 務 費	0		10,000
通 信 費	1,498		110,000
特別事業費	0		0
学生アルバイト料	0		0
会 費	0		50,000
支 出 計	990,222		1,559,400
当年度末残高		2,001,133	



挨拶

2020（令和2）年度、鹿児島国際大学社会福祉学会誌『ゆうかり』第20号の作成において社会福祉学会学生運営委員長を担当させていただきた上村耀です。今回、私たちは、『ゆうかり』を作成するにあたり、『さくらネコの特集』、『花』、『匠にインタビュー』を掲載させていただきました。このような取り組みを行うにあたり運営委員の皆様がそれぞれ役割と責任感を持って主体的に行動していただけたことで第20号の『ゆうかり』を作成することができました。内容も面白いものになっておりますので是非読んでみてください。

さて、話は変わりますが2020年度は、前代未聞の新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行により、当たり前になっていたことができなくなり、学生はもちろんのこと、教員の方々、世界中の方々が生きづらさを感じた年であったと思います。私自身、休講や外出自粛が続く中で「もう嫌だな」「何も気にせず遊びまくりたい」と思うことも多々ありました。しかし、このような生活を行う中で気づいたことがあります。それは、時間の大切さです。なぜなら人間にとって唯一、平等なのは時間であり、この時間というものを活かすも殺すも自分自身であると感じたためです。つまり、私が皆様に何を伝えたいかということ、新型コロナウイルス感染症は、確かに日々の日常を変化させ、生きづらい世の中になったことも事実であります。そこは否定はしません。しかし、考え方を変えれば今一度自分自身を見直し時間をどう使うのか考える良いきっかけになったのではないかと私は思います。

最後になりますが、2020年度 of 社会福祉学会には、下記のとおり、多数の運営委員の皆様が参加してくださいました。上田雪子先生を初め、学生、教員様々な方々のお力添えがなければ第20号の『ゆうかり』の作成はできなかったと感じている次第であります。この場を借りて感謝の言葉を綴らせていただきたいと思います。「ありがとうございました」。(上村耀)

編集後記

私はこの1年間ゆうかりの活動を通して、色んなことを学ぶことができました。まずは社会福祉について、ボランティアの方の話を聞いて、講義で学ぶ知識以外のことを知ることができました。そして、ボランティアの楽しさと大切さを学びました。学んだことを今後の活動に活かし、積極的にボランティアに参加しようと思いました。(上村麗奈)

新型コロナウイルスの影響で不安だった初めての大学生活の中で、貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。身近にあっても今まで気が付かなかったような様々な活動を知って、とてもびっくりしたのを覚えています。新型コロナウイルスが収束したら、ボランティアなどにも積極的に参加したいと考えているため、その時はこの貴重な経験を生かしながら頑張りたいと思います。(小野美幸)

「匠にインタビュー」という記事でゆうかりの編集に関わってみて、未経験者が多く大変でしたが、協力して作ることができました。地域活動は大切なことだと思ったので、これからも見守っていきたいです。また、ボランティアなど自分が取り組めることに参加していきたいです。この活動を通して地域のボランティアに興味を持つことができ、社会活動について知ることができる良い機会でした。(下津美月)

初めてゆうかりに参加し、記事を書いたので、難しく慣れないことばかりでしたが、協力して書き上げることができました。花を育てることは大変なことだと改めて感じるすることができました。皆さんにぜひ読んでもらえたら嬉しいです。1年間活動できとてもいい経験になりました。(三宅希美)

今回は、新型コロナウイルスの影響の中、なかなか出来ない体験をさせていただきました。この体験が今後の自分の大切な経験になると思います。ボランティアの大変なところや、やりがいのある所を知ることが出来ました。これを今後のボランティアで活かしていきたいです。(榊彩人)

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、入学してから思うようにいかないことも多かったですが、ゆうかりでの活動を通じて様々なことを学べました。地域のために高齢者サロンや子供食堂をボランティアで運営している方であったり、地域猫の推進であったりと、この活動をしていなかったら知らなかったことを学べたことは自分にとって大きな財産になりました。(田畑夏美)

ゆうかりの活動を通して、ボランティアを長年実施されている方へのインタビューなどで自身のボランティア活動に対する考え方や取り組む際の姿勢を変えていこうと考えた。新型コロナウイルスの影響で予定が大きく狂い、昨年はボランティア活動にあまり参加できなかったが、今年は一つでも多くの活動に参加していききたい。(桑鶴海良)

ゆうかり第20号編集を担当した、上村燿さん、上村麗奈さん、小野美幸さん、下津美月さん、三宅希美さん、榊彩人さん、田畑夏美さん、桑鶴海良さんの8名の学生に心より感謝いたします。(上田雪子 ゆうかり編集担当)

本誌ロゴ、ポポラスイラストに関しては、村上絢音さん、村上瑤子さんからのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。





2020(令和2)年度 鹿児島国際大学社会福祉学会 運営委員

教員運営委員 上田 雪子(運営委員長) 古賀 政文 永富 大輔 林 岳宏

学生運営委員

1年: 下津 美月 三宅 希美 田畑 夏美 桑鶴 海良 上村 麗奈 小野 美幸 榊 彩人 玉利 元樹
佐藤 大哉 新澤 照海 福留 妃奈 安田 真美子 上田 果凜 鯨島 未来 寺田 奈央
牛ノ濱 優奈

2年: 山口 風 一氏 未奈 津崎 真希 松永 みなみ 本園 叶美

3年: 上村 燿 島木 仁哉 草宮 綾平 堀段 怜奈 茶園 美里 東原 樹 井上 諒 脇 絵里香
元 莉奈 松下 大樹 平山 翔大 中江 好輝

会計監査委員 (教員) 山下 利恵子 有村 玲香 (学生) 中窪 倫太郎 竹宮 千智

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆうかり 第20号

発行 2021年3月19日

編集 鹿児島国際大学社会福祉学会

住所 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1

Tel 099(261)3211(代)

印刷・製本 有限会社 広和印刷

Tel 099(222)3522

